

清水みなとの資源探しウォーク開催！—清水社会実験報告—

Discover new potentials in Shimizu!

—Pilot program was held in Shimizu—

今年度から始まった清水 PJ ですが、11月23日(水祝)に初めての社会実験を開催しました！これまでの調査結果の展示からまちあるきまで、多数のプログラムにより資源探しを行いました。

text_kitagawa



▲巴川水uppツアー

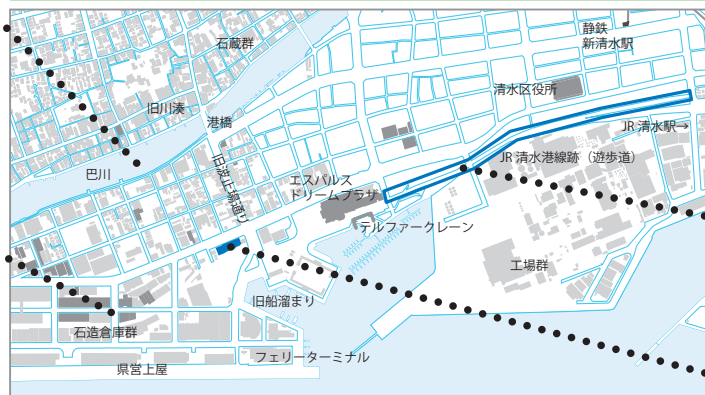
▲ポートの上で昔の川湊をご案内！



▲みなとの資源探しウォーク

▲石造倉庫群の中を歩く

11月23日(水)に、清水港まちづくり資源探しイベントが行われました。22日(火)には、西村先生によるみなとの歴史的資産に関する講演会が行われ、港湾関係者をはじめとする多くの方々にお集まりいただきました。また翌日には、これまでの調査結果や提案をまとめたパネル展「清水みなとの未来展」、実際に住民のみなさんとまちを歩く「みなとの資源探しウォーク」、ポートでの川上りにより川湊時代の歴史を紐解く「巴川水uppツアー」等、数多くのイベントが行われ、いろいろな角度から清水の資源を住民のみなさんに探していただきました。特にまちあるきでは、祝日



▲清水みなとの未来展

▲廃線跡の遊歩道に設置されたパネル展



▲西村先生講演「みなとの歴史的資産」

▲清水の歴史についてレクチャー

ということもあり子供連れでの参加も多く、港湾の歴史的資産、特に石造倉庫群などに大変興味を持っていただけたようで、まちあるきを楽しんでいただけたのではないかと思います。午後には雨が降り始め、まちあるきを中止するというアクシデントもありましたが、今回の実験で清水での我々の活動を住民のみなさんに知っていただく良い機会になったのではないかと思います。基礎調査が一段落しつつある今、今回の社会実験や調査結果を基に、今後どのようなことが必要になり、具体的に何から着手するべきか、次の展開を模索していきたいところです。

第46回日本都市計画学会大会

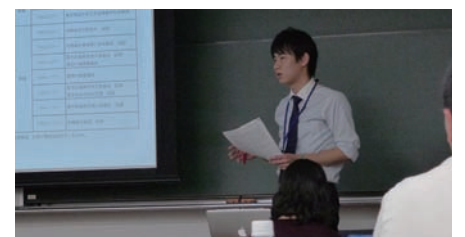
The City Planning Institute of Japan Annual Meeting 2011

text_yabuki

11月19日(土)及び20日(日)、第46回日本都市計画学会学術研究論文発表会が東京大学本郷キャンパスで行われました(本年度は学会60周年でもあり、18日(金)には「未来へつなぐ日本の都市の可能性」というテーマで記念シンポジウムも同時開催)。都市デザイン研究室からは博士課程3名、直近の卒業生では今年3月に卒業した大熊瑞樹さん、阿部正隆さんが発表しました。各発表では、会場の名立たる先生方の的確な指摘や質疑が飛び交い、論文執筆中の身としては身の引き締まる思いでした。また最終日には「産業・生活・文化の総合的アプローチによるクリエイティブ・タウン構想」と題し、首都大、横国大と協働した「モノづくり観光研究会」の過去3年間の取り組みを総括したワークショップも開催され、本研究室OBの野原卓先生、岡村祐先生、大熊瑞樹さんも登壇し、「モノづくり」を活かしたまちづくりの在り方を大田区と東大阪市高井田地域を例に議論し、大いに盛り上がりました。



▲発表後の大熊さん



▲熱心に発表を行う阿部さん



▲ワークショップの様子

発表者一覧(敬称略)

日付	発表者	題目
11/19	大熊 瑞樹	住工共存地域における工場連携を基盤とした地域ネットワークの重層性に関する研究
	江口 久美	フランスにおけるグルネル2法下のZPPAUPからAVAPへの展開に関する研究
	松井 大輔	所有者同意を必要としない登録制度による近代建築の保存に関する考察
11/20	傅 舒蘭	近代の杭州における湖濱地区計画に関する研究
	阿部 正隆	戦前における内務省地方計画構想の一終着点

留学生コーナー第14弾！

An Essay by International Student vol.14

多国籍な都市デザイン研の特徴を生かし、長年住んでいると気づかない日本の都市の姿を留学生の新鮮な目で伝えます。第14弾は、韓国出身の南 知賢さんです！

庶民の哀歓の物語—新宿ゴールデン街

D3 南 知賢

私において一番印象的だった東京の都市構造は新宿のゴールデン街だ。東京の最大の特徴は多くのレイヤーの歴史が混在する多様性にあると思う。新宿三丁目の賑わう派手な道の裏手に選り分けられて静かに前後の痛みをおさめて庶民の哀歓を撫でてくれたやや小さい路地がそのまま残っているゴールデン街。1950年頃東京都が駅前の闇市場を撤去した替地として、初めは公娼地域として形成されたが、売春防止法施行(1958年)以後、民主化時代には作家やジャーナリスト、編集者たち熱い論議や討論を広げた場所だったし、バブル経済全盛期には疲れた一日を終えた会社員たちがお酒を交わしながらストレスを解消した所だ。路面電車の記憶が遊歩道に残っていて、現在も約250店舗が残っていてその趣きを楽しむ人々が多い。それらの店舗は3坪~4.5坪で、カウンターに立てばあらゆる人たちがお互いに顔を見合わせて話することが出来るし、特に外国人なら、日本人たちの暖かい生活の話を実感できる情感ある空間だ。最近、韓国のソウルでは600年間の庶民の愛着が立ちこめたピマッコルと言う路地が都市再開発で消えてしまった。ピマッコルは朝鮮時代、庶民たちが鐘路を往来する高官たちの馬を避けて通った道というピマ(避馬)に由来する。二人がやっと過ぎ去るに値する狭い路地に居酒屋、飲食店が整然と並んだここは2003年、都市再開発で無くなる運命となり、部分的に鐘路2街から鐘路6街に渡っているピマッコルは修復再開発区域で指定して以前のピマッコルの姿を再現する事にしたが、珍しい都市構造が有機的連繋性を失って破片化されて残されるということは悲しいことだ。歴史的な庶民の生活場所は場所性それ自体だけでの意味だけではなく、時代によって多様な人々、多くの都市の社会的問題と一緒に残っていた空間として価値があると思う。



▲新宿ゴールデン街の様子

プロジェクト報告

プロジェクトの秋

2 Projects in Autumn

佐原メンバーには12月の建物公開に向けた意気込みを、五箇山メンバーには現地体験の感想を語って頂きます。



佐原 SAWARA-project プロジェクト

text_matsumoto

佐原では、12月3日(土)と4日(日)に、「佐原の町並み建物特別公開」が行なわれ、重伝建地区および景観保存地区の建造物の内部が公開されます。現在佐原PJでは、「建物公開」に併せて開催する「佐原の原動力展」の準備として、8月の盆ふえすたで行なった「底力展」の追加調査と、今回初めて行なう井戸の実態調査を行なっています。井戸の実態調査は、井戸の利用形態や水質、建設年などについて所有者の方に直接お話を伺うものです。その結果、現在未利用のものも含めると、多くの家で井戸を所有していることがわかりました。「原動力展」では、上記の井戸調査報告や、佐原の過去の災害履歴や復興の歩み、そして佐原のまちのこれからについて、提案も含めて展示する予定です。



▲建物公開参加物件のひとつ、亀村本店 ▲底力展をバージョンアップさせます！



五箇山 GOAYAMA-project プロジェクト

text_omori

11月19日(土)と20日(日)に、五箇山の菅沼集落で開かれた茅場の造成イベントに永瀬助教と参加してきました。今年から菅沼集落では若手を中心に茅場の再生に取り組んでおり、全国からの参加者を募って、茅の苗を植えてもらい、茅葺きの体験をしてもらうことが今回のイベントの趣旨です。参加者は美山(京都)と茅葺き職人や御殿場(静岡)の茅場育成に取り組む団体、早稲田で不燃茅を研究しているグループ、庭師集団など様々なバックグラウンドの人が集まっていて、新たな交流が生まれました。豪雨の中ぬかるんだ斜面地で苗を植えていきましたが、参加者の人数が多くあっという間に終わりました。このように世界遺産保全に興味がある外部の人を積極的に巻き込んでいく取り組みが重要だと改めて認識した次第です。



▲茅葺き体験 ▲筑波大安藤先生によるレクチャー

11月・12月の予定

Information

- 11月26~27日 浅草PJ「光月工房」
- 12月2日 修士論文中間発表
- 12月3~4日 佐原PJ「佐原の町並み建物特別公開」
- 12月8日 第11回研究会議&忘年会

✦ 編集後記

北川 貴巳

最近めっきり寒くなりましたね。秋から冬にかけてのこのシーズンは、今僕に大変な悩みをもたらしています。そう、着るべき服がないのです。4年間を過ごした北海道では、秋なんて季節はありませんでした。急に寒くなって、急に冬が来たりします。ですが東京では、確かに朝や夜は寒いですが、かといって日中は暑くて厚手のアウターを着ていく勇氣もありません。いっそのこと早く冬がくればいいのに…と、最近はそんなくならないことを考えてしまうばかりです。